

(様式3)

## 令和5年度新たな課題に対応した人権教育研究推進校事業報告書

|       |  |     |       |     |     |     |        |     |
|-------|--|-----|-------|-----|-----|-----|--------|-----|
| 学 校 名 | 丹波市立青垣中学校  | 校長名 | 井本 健吾 | 教員数 | 17  |     |        |     |
| 所 在 地 | 〒669-3812 兵庫県丹波市青垣町小倉365-1<br>T E L 0795-87-0212 F A X 0795-87-0420<br>Eメール <a href="mailto:aogaki-jhs@tamba.ed.jp">aogaki-jhs@tamba.ed.jp</a> |     |       |     |     |     |        |     |
| 学 年   | 1学年  | 2学年 | 3学年   | 4学年 | 5学年 | 6学年 | 特別支援学級 | 計   |
| 学 級 数 | 2  | 1   | 2     |     |     |     | 2      | 7   |
| 児童生徒数 | 43   | 39  | 38    |     |     |     | 11     | 131 |

### 研究の概要

- 1 研究主題 「多様な価値観を認め合える教育の推進」  
～自己理解・他者理解を深めるすべての教育活動～

### 2 研究の経緯

#### (1) 研究当初の学校及び児童生徒の現状と課題

本校は、丹波市北部に位置する、全校生131人の小規模校である。1小1中のため人間関係が固定化しており、自分たちと違うものへの受容が難しい傾向がある。地域には高齢者が多く、高齢者施設や手話サークルがあり、社協を通じて多くの生徒がボランティア活動に参加している。また、2012年に設立された児童養護施設『睦の家』があり、本年度はそこから7名の生徒が通学している。これらの生徒は学校では比較的落ち着いた生活を送れているが、『睦の家』ではこれまでの生育歴等により、不安定な姿も見られる。そのため心のケアを継続しながら、他の生徒が受け入れ支える学校づくりが求められている。

また、本校には日本語が話せない外国籍の生徒が2名在籍している（1名は8月に転校）。小学校にも外国籍児童が複数名在籍しており、多文化共生教育を通して異文化理解を深め、心の安定や生活適応、さらに学習支援を図るなど、学校生活への早期適応を促進する必要がある。

昨年度、SNS等によるいじめ事案が発生していることもあり、多様な価値観を認め合える教育を推進し、自己理解・他者理解を深める取組を充実させていく必要があると考えている。

#### (2) 取組の内容

- ア 多様な価値観を認め、自他ともに大切に人権教育の充実
- ・相手の立場にたって考える力、想像力を高める授業の取組
  - ・差別やいじめを許さない意識と実践力の育成をめざす取組
  - ・多様性を認め、互いを尊重する学校文化の創造をめざす取組
  - ・体験学習やボランティア活動の推進
  - ・情報モラル教育の推進
  - ・人権教育資料の効果的な活用
- イ 人権教育における小中高・地域・家庭との連携
- ・児童養護施設『睦の家』との連携の在り方
  - ・小中及び中高と連携した人権教育の在り方
  - ・家庭、地域への啓発活動の在り方

### (3) 今年度の取組

- 5月15日(月) 第1回研究推進委員会  
5月24日(水) 睦の家見学(今年度着任した職員対象)  
6月7日(水) 第1回人権教育推進校連絡会  
6月12日(月) 第2回研究推進委員会  
6月14日(水) 人権ハピネス(人権教育事業)開講式  
6月19日(月) 第3回研究推進委員会  
6月21日(水) 授業研修(教科)に向けての教職員アンケート実施  
6月29日(木) 生徒の人権意識調査アンケート第1回実施  
7月5日(水) 第4回研究推進委員会  
7月11日(火) アイマスク体験(1年生)  
7月12日(水) 第1回研究授業(特活)「多文化共生」(3年生)→実践報告①  
8月8日(火) 第1回校内研修会  
… 第1回研究授業事後研修と生徒アンケートの分析  
(市教委指導主事を招いて)  
9月14日(木) 酒井雅和先生「見えないを生きる」講演会(全校生)と交流(1年生)  
9月15日(金) 第2回研究授業(特活)「障害者理解」(1年生)→実践報告②  
9月20日(水) 学級弁論大会(人権作文)  
10月10日(火) 平和映画鑑賞『ソ満国境の夏 15の夏』  
11月4日(土) 文化祭弁論大会(人権作文)  
11月14日(火) PTA教育講演会『サイバー空間の視点から身を守るために』  
11月17日(金) 手話教室(2年生)  
12月4日(月) 第2回人権教育推進校連絡会  
第3回研究授業(教科:家庭科)「高齢者理解」(3年生)→実践報告③  
第2回校内研修会 … 第2回、第3回研究授業事後研修  
12月6日(水) 人権ハピネス(人権教育事業)閉講式 木の実学級講演会(同和問題)  
12月13日(水) 人権啓発ビデオ『夕焼け』(ヤングケアラー、子どもの人権)(道徳)(1年生)  
12月15日(金) 独居老人への年賀状(文化委員会、全校生)  
12月18日(月) 第5回研究推進委員会  
12月20日(水) 第4回研究授業(道徳)「性的マイノリティの人権」(2年生)→実践報告④  
第3回校内研修会 … 第4回研究授業事後研修、今年度の研修の振り返り  
人権啓発ビデオ『夕焼け』(ヤングケアラー、子どもの人権)(道徳)(3年生)  
1月9日(火) 生徒の人権意識調査アンケート第2回実施  
1月15日(月) 第3回人権教育推進校連絡会  
2月2日(金) 第6回研究推進委員会  
2月14日(水) 同学年同和小中連絡会(1年生)

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 生徒の意識の変化(アンケート結果より)

ア 自己肯定感 「良いところがある」 78%→85%(+7)  
「自分のことが好き」 62%→69%(+7)

- ・1年近く過ごして、友だちとの関わりが深まった。
- ・行事などの体験を通じて自信がもて、心の成長が見られた。

イ 自己有用感 「自分は人の役に立つ人間だと思う」 61%→66%(+5)  
「人の役に立つ人間になりたい」 97%→99%(+2)

- ・前回より増えているが、「役に立つ人間になりたい」とほとんどの生徒が思っているにもかかわらず、「役に立っている」と思っていない生徒が34%もいる。成功体験が低いこともあるだろうし、またその自覚ができていないことも考えられる。もっとそういう体験を増やすとともに、生徒自身に分かる評価言(声かけ)をしていく必要がある。

ウ いじめ 「いけないと思う」 96%→99% (+3) 「思わない」 2%→1%

いじめを見たとき 「何もしない」 4% 「何もできない」 1% 「教師に相談する」 51%

- ・一人でも「いじめをいけないと思わない」生徒がいることは問題。
- ・いじめを他人事と捉えず、積極的に解決しようとする態度を育てていく。
- ・先生に話しても解決しないというあきらめがあるのかも？生徒の話を聴く時間を大切に、信頼関係を築く。

## エ 人権課題に対する理解・意識の変化

- ・子どもの権利 (+7)、障害者 (車イス) への対応 (+8)、ヤングケアラー (+52)、外国人問題 (+6)

… 授業で取り組んだ課題は理解が深まり、積極的な意見が増えた。意識が高まっている。

- ・LGBTQ (+13)

… 世の中の認知度が高まったためか、弁論大会のテーマにしている生徒が多くみられた。

## (2) 今年度の成果

今年度は、「多様な価値観を認め合える教育」という主題に基づき、本校のこれまでの取組と生徒の実態をふまえて「多文化共生」「障害者理解」「高齢者理解」「性的マイノリティの人権」についての授業研究を行った。それぞれの内容について、ただ知識として理解するのではなく、生徒自身が自分のこととして相手の困り感を理解し、支援方法を考えられるようにするために、体験活動を取り入れた指導を行った。自ら体験することで相手の立場に立ち、その心情を想像することは人権感覚を磨く上で不可欠である。相手の立場になって自分事として考え、思いやることを、生徒はこれらの授業を通して学ぶことができたと思う。

また、これらの授業は生徒だけでなく、授業を参観した教師にとっても大きな学びとなった。生徒が真剣に考え、悩む姿を見ながら、教師自身も共に考え、授業後の研修会はもちろん、研修後もその話題が続くほど、熱心に取り組み、考えることができた。

人権の課題は授業の中だけで行われるものではない。日々の学校生活全体の中で、小さなトラブルや授業中の発言の中でも、人権に触れることは多々ある。その時に教師が、あるいは生徒自身が問題点に気付き、人権に関わることとして意識することが、以前より増えてきたと感じている。また、本校では以前から話を聴く態度や話し方の指導に力を入れてきた。相手の方に体を向けて「聴く」「うなづく」「反応する」態度の育成、そして他者の発言を受けて自分の意見を言う「話法」の活用。これらは、安心して自分の意見が言える、何を言っても受け入れられる集団の雰囲気づくりであり、人権尊重の基盤づくりであると考えられる。そういった自他を大切に作る集団の雰囲気づくりも、学年が上がるほどに出来上がってきている。今年度の授業実践の中でも、そういった雰囲気の高まりを感じる事ができた。

## (3) 今年度の課題

生徒数の少ない1小1中の固定化された人間関係の中で、自分たちと違うものに対する抵抗感を強くもつ生徒が少なからず存在しており、授業として学んだときはしっかり考えられているのに、身近な人の人権となると知識と行動が乖離してしまうといった傾向がある。また、見える障害に対しては理解できて、手を差し伸べることができても、見えない障害に対してはそれが難しかったり、学力や運動能力など見える力で人の価値を図ったりする傾向がある。そのような生徒の価値観を崩し、一人ひとりのもつ個性を認め、尊重するといった「人権」を指標とした価値観を育てていけるよう、生徒の心に響くような教材や指導法を工夫し、さらに実践を重ねていくことが必要である。

それと同時に、教師自身が常にアンテナを高くして人権に関わる問題を意識し、日常的に話題にして意見交流し、自らの人権感覚を高めていく努力をしていかなければならないと考える。

そして、人権の「新たな課題」として、今年度取り組んだテーマをさらに深めるとともに、それ以外のテーマについても学ばせていきたいと思う。